



豊後大野市教育委員会

会 議 要 録

議 題：第 5 回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会

日 時：平成 29 年 1 月 20 日（金）17：57～19：44

場 所：豊後大野市中央公民館視聴覚室

欠席者：なし

（佐藤委員より遅刻する旨の連絡あり。その後出席）

1、開 会 17：57～

2、委嘱状交付式 17：57～

萩原委員からの辞職の申し出を受け、検討委員会設置要綱第 4 条の補欠委員の規定に基づき、後任として後藤順子さんに検討委員を委嘱した。

3、議 事 17：59～

●豊後大野市図書館及び資料館建設基本構想について（図書館編）

（1）前回までの協議について（確認）

委員長	では事務局説明を
事務局 （小野）	<p>それでは、基本構想素案の資料をご用意ください。</p> <p>前回の検討委員会の時にご協議いただいたものを踏まえ、P1～P4 の基本構想の、1 経緯（背景と趣旨）。3 ページ目に、現状と課題（図書館編）。4 ページと続きます。</p> <p>まず、（背景と趣旨）ですが、前回の資料の市の総合計画、教育総合計画、これらを参考にして、【全体として】と書いている部分から、中段の【図書館について】このあたりを要約して記入させていただきました。</p> <p>そして、「あったらいいな！こんな図書館」が主に 1 ページ目から 2 ページ目にかけて、市民講座で行ったものを載せております。</p> <p>次に、【資料館について】ここはまだ触れていないところですが、教育総合計画を基本としつつも、平成 28 年 5 月に、大分豊後大野のジオガイドの会を含む 4 団体から市教育委員会に要望書が提出されました。</p> <p>その内容については、2 ページ目中段以下より、①先人が残した貴重な記録や遺物、遺跡の流出や紛失、荒廃が懸念されている、②緒方町にある現在の歴史民俗資料館は地理的な不便さと狭小な規模である、ということが問題として上げられているが、その解決として、図書館建設について、その中に資料館の併設を入れ、文化の殿堂に相応しい充実した図書館にしてほしいというものです。</p>

	<p>市教育委員会はその要望書を重く受け止め、今回図書館と共に検討していくという運びとなりました。</p> <p>続きまして3ページ目。 2-1 現状と課題(図書館編) こちらで前回いただいた意見を踏まえ、記入をさせていただきました。 現在の図書館は、旧三重町公民館の1階に最初の図書室が昭和56年4月にでき、昭和61年7月に現在のところに新館が開館して、サービスを開始し、現在に至っている状況です。 その他【施設の状況】、【職員の状況】、【サービスの状況】、【利用の状況】、【施設・設備の課題】の流れで記載をさせていただいています。 課題については、「狭い」という意見が多数と、トイレの数、駐車場などを記載しています。 一応これが案として作りましたが、いま説明する中で、質問や課題はこういうものを付け加えた方がいいのではないかといいものがあるならば、委員長、意見をいただきたいと思っております。よろしくお願ひします。</p>
委員長	資料データは図書館以外のもあるか。
事務局 (太田)	図書館のみです。
委員長	何かあるか。ないようなので次に。
(2) コンセプトについて	
事務局 (小野)	<p>前回(第4回)において事務局案を提示してほしいという声があったが、ここを事務局が作ってしまうと、この検討委員会の意義が損なわれる、また皆さんから意見を聞くということでこの検討委員会が成り立っているという点を十分考慮し、渡部委員長の渡部私案ということで皆さんにお諮りします。ただ、これも骨組み部分です。委員長より説明をお願いします。</p>
委員長	<p>今までの経過や視察、実態等々を見て、望ましい方向はどうなのかということで、たたきだいたいのものを箇条書きで用意した。</p> <p>●基本理念 図書館法・ユネスコの公共図書館宣言・生涯学習宣言の各精神の尊重</p> <p>図書館は、図書館法、この法律に書かれている文言が新しいものにやや追いつかない部分があるので、それと、普遍的な原理原則にたって考えると、世界的に図書館というものはあって、それは変わらない普遍的な原理原則で運営されている。 世界中、図書館と言えば無料が原則である。 そうした観点から、ユネスコの公共図書館宣言の理念も踏まえた方がいいのではないかと。 ユネスコにつきましては、例えば、軍艦島を世界遺産にする時にはユネスコが基準である。</p>

ユネスコの基準は、誰が見てもまっとうな基準だと認められているので、その理念を踏まえる。

1985年に生涯学習宣言が出される。これは、図書館が生涯学習の拠点だという認識である。そういうことも重要で、生涯学習論は、それぞれの考えがあるかもしれないが、これは世界的に通用するようである。「いつでも どこでも 学べる」という、個人の学びが保障するということが書かれている。それぞれの宣言の中の理念を文章化して、今後それがよろしいということであれば、素案の基本理念のところをもう少し踏み込んだ形で、この中から引用して、ご提案申しあげたい。先ほどお話がありましたように、豊後大野市の基本計画などもあるので、そうした理念の中で基本方針があつて、これは理念を実現するための方針なので、①から⑤という形で上げた。

①「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」利用できる図書館

これは、お金の有無や年齢に関係なく、多く広く開放したのが図書館の使命なので、どなたでも自由に、断りなしに、開いている時は利用できるものというのが、図書館の基本中の基本。これは言葉としては丁寧な言葉で書かれていると思うが、これを実現となるとなかなか難しいと思うところもある。でも、それを目指していこうということ、方針として上げている。

図書館のそれぞれの基本計画や、各自治体が掲げる中によく出てくる。

②暮らしに役立ち、人と資料を繋ぎ、結ぶ図書館

これは、暮らしを豊かにする。地域の暮らしを豊かにする。ということが、ユネスコの公共図書館宣言の産業の関わりのところ盛込まれている。

人と資料を繋ぎ、結ぶ図書館というのは、近年のキャッチフレーズ。

今までの、本を貸すだけの図書館に対する反省事項があつて、何かしらのアクションがあつて、利用者と資料を結ぶという大原則をこの方針のところに掲げている。

③まちづくりの拠点として機能する図書館

これは、図書館にとってまちづくりというのがひとつの流行になっていて、1月16日の大分合同新聞に、全国の図書館まちづくり推進状況が紹介されていた。

これが全国のひとつの流れで、2月1日に文部科学省が主催の研修で、私が講演をさせていただくが、そのテーマはまちづくり。近年、2010年からまちづくりとの関係性が非常にクローズアップされてきた。不易流行ではないが、新しいものを取り入れながらということでした。

④市民一人一人の豊かな学びを支援する図書館

豊かということが抽象的だが、これは、単なるポップな小説を読むだけではなく学びというのは、ユネスコの公共図書館宣言にあるように、全ての人に広く運営ということで、それぞれの発達段階や要求度に応じて、ある程度深い学びも実現できるような蔵書構成や内容を吟味しなければいけない。

集団ではなく、個人が学びたいことを実現できる図書館を目標として持たなきゃい

けない。

これは、この委員会が立ち上がる前に、「あったらいいな！こんな図書館」の受講生に、しきりに言われた1つの言葉がある。これが案外今までの公共図書館の反省から、ポップなものばかりして、貸出が伸びるベストセラー本ばかり数十冊も図書館に置くという批判があったり。

そういうことではなくて、声を出さない方や、まだまだ水準に達していない方、もしかしたら次に手を出そうとする方々も、個別的な要求も汲み上げて、学びが深く出来るように支援する図書館をということ。

⑤地域・郷土のあらゆる分野の情報拠点となる図書館

これは、図書館法第2条「地域の事情に沿って」という言葉があり。これが今まで沿ってなくて、マニュアル化したパッケージ図書館が流行して、海辺なのに山の資料が無いとか、そういうことになると地域から乖離するということで、地域のさまざまな資料を集めながら、ちゃんと答えてくれて拠点となる(図書館を目指す)。

この間の議論に出た、朝地町は芸術の町、大野町は音楽の町、いろんな分野が情報拠点になるようなものを集めていく図書館。全てを網羅することは難しいと思うが、そういう視点に立つということ、これが方針である。

●サービス目標(案)

①年間の市民の利用が全国平均を超える水準

図書館を造って、どうぞ使ってくださいではなく、それなりに利用されないと、市民の学びの拠点になるどころか、市民からご批判を受けたり、造っただけの図書館になってしまうので、図書館界で貸出とは一面的な評価のようだが、世界的な評価の基準となっているので、日本全体で5冊、これを実現するエリア的に考えると、この周辺でいくと三重町の図書館が発生している。朝地、犬飼、緒方、清川、そういうところに行くと、なかなかそこまで到達していない。

どうせ造るなら造りっぱなしではなく、利用される(図書館を目指す)。

相当ハードルが高いというわけではなく、全国平均な部分だと、どなたにも見えるような状況になるのではないかと考えている。

ちなみに和歌山市は、全国の自治体の中の県庁所在地で、人口37万人レベルの図書館としてはかなり画期的な大きな図書館を造りました。和歌山大学の図書館が10,000㎡で75万冊収容しているが、(和歌山市は)7,000㎡で40万冊なので、大分市よりはるかに大きい。

ところが、人口同規模の中間都市の38万ラインでいくと、最低。巨大なもので利用されていないということは、図書館界では常識。来やすいところに図書館があれば使われる。例えば私は豊橋市、40万人の人口で分館構想を示した。検討委員をした。それで皆さん気づき始めた。大きな図書館を1箇所集中するより、分散型で広いということ。分館が4月にオープンする。目配りをした全域サービスでどの町でも5冊になれば、市民が図書館に出会えるということになる。

②学校教育とも連携し将来的に中学校区単位での拠点も整備

これは私の独断と偏見だが、全ての中学校を廻った。

三重と緒方は少し違うが多くの中学校は(公民館図書室と)隣接している。これは、学校教育との連携が重要じゃないかということで、将来的に中学校単位で分館構想を打立てるときに、すぐには実現しないかもしれないが、学校図書館と公共図書館との連携が1つの課題だということで、モデルケースの資料をお持ちした。これは、脚光を浴びているところだが、キラリと光る図書館づくりというカラーで。志賀県の東近江市立図書館の五個荘という町の図書館で、表紙を見てほしい。向こうに見えるのが図書館。五個荘図書館館内案内図で「五」のところが開いていて、そこと学校がつながっている。財政難を乗り切るためにも学校とドッキングするというのも1つの案。

全部見たわけではないが、かつては沖縄の(旧)知念村の図書館で、小学校と中学校が校庭で結ばれていた。小学校の校舎と中学校の校舎の中間あたりに、公共図書館と学校図書館を使える図書館を用意していた。沖永良部島の国頭小学校は、独立館の学校図書館を造り、住民の方も利用が出来るようにしている。東近江の図書館は校舎がつながっていて自由通行が学校の方から出来る。

メリットは、2つ造らなくてもよい。また一昨年の4月から学校に司書をおくということが法に明記され、学校だけの司書の仕事から、もう一つの仕事を公共(図書館)と一緒にするという発想も少なからず出てくるのではないかと思ったらこれが出てきた。この前身がスウェーデン。

昨年10月、スウェーデンに行ってきた。今では426館、学校図書館と公共図書館の統合型のスタイルが出来ている。将来的に子供が減り、行政的にもいろいろあるとすると、お金の面でも制御でき、子どもたちにとっても魅力的な図書館になる。

三重の図書館が数万規模。学校図書館に基本をおくと、一番小さな図書館で4,800冊が基準。豊後大野市内の図書館だと、三重を除いて10,000冊以下でも学校図書館の基準を満たす。ところが、公共図書館と合体することで数万冊を置くことも可能となるので、今は難しくても将来的に学校図書館と連携したものを視野に入れた図書館づくりもいいのではないか。

③赤ちゃんから通信制の高等教育までを支援する水準の確保

通常“赤ちゃんから老人まで”、年齢別サービスのイメージだが、蔵書水準の根拠としては、地方では高等教育を受ける機会を物理的な問題から難しくなる、そうするとそこそこの水準なら通信制の高等教育を受けることができたり、学びを豊かにするために講座を、ツールを使って学べるので、そういう水準になっていけば信頼されるものになるのではないか。

④図書館の望ましい基準を踏まえたサービスの展開

文部科学省が、望ましい基準を明記している。私が昨年出版した本だが、その中に図書館像が描かれている。(目標が)上げすぎかも知れないが、内容、水準、利用のイメージ、こうしたものの目標がないと造りっぱなしになってしまうのではないか。しっかりしたものを作れば支持され、成長していく図書館となる。

	<p>そのためには、目標を掲げそれに向かってみんな(職員も行政も市民)が一緒になって努力をしていけば、今より以上のものが出る。サービスの指標として、基準、物差しが必要。</p> <p>1994年に豊の国大分県公立図書館の著作に関する報告書が出され、1995年に公共図書館の基準値が出された。こういう諸々の基準を参考にしつつ、公的な機関が基準を出しているの、それに向けていくのも1つの方法。</p> <p>目標は客観的に、利用されて、どのくらいの利用が市民にとって図書館の目安になるのかということを考えて上で上げた。</p> <p>今申し上げたことを文章化して素案を作って、次回、次々回で提案したい。ご意見をいただきたい。</p>
田原副委員長	たいへん素晴らしい案だという印象。是非、それをたたき台にして、議論を進めた方が手っ取り早いと思う。
後藤綾子委員	なるべくシンプルがいいとは思いますが、“子どもたち”という言葉を入れてほしい。子どもたちに本の魅力を伝えるということ、文言の中に入れてほしい。
委員長	なぜかと言うと、高齢化が進み少子化も進み子どもが減ると思うが、本の魅力を子どものうちに伝えておかないと、大人になって本を読むということは難しいので、そこを意識して欲しい。
委員長	「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」というところに入れようと思っています。赤ちゃんから・・・というところがブックスタートを意識したり。絵本体験から入ってくる。次の水準のところまで上げている。
後藤綾子委員	市民目線から、図書館と一緒に作るというところを入れた方が、市民自身も「自分たちも頑張ろう」という気持ちになるのではと感じた。
委員長	理念、まちづくりの拠点のところでは落ち着くのではないかな。
杉浦委員	<p>基本方針、サービス目標もイメージがしやすかった。基本理念のところ「市民とともに」や「子ども」などのキーワードが入るといいと思う。法律の部分は、背景の部分なので、平易な文章でお願いしたい。</p> <p>今日お話していただいたことをたたき台にして、基本方針、地域・郷土のあらゆる分野のところ佐藤委員が言われた大野町、朝地町の話、大きな拠点は三重町に置き、分散型も大切なあとと思う。</p> <p>市の総合計画では、「人も自然もシアワセなまち」とある。緒方町で環境、自然の本を寄贈したい。1万冊弱を緒方町の資料館、三重町に公民館、博物館、図書館の総合的な拠点もすばらしい。同時にそれぞれ他の町に、緒方町にもエコライブラリー的なものが、緒方中学校、公民館の片隅に分散型の拠点としてビジターセンター的な場所が入るといい。ユネスコエコパークのつながりもある。そういう意味でそれらのことがサービス目標等に入るといい。</p>
委員長	<p>子どものことは、ユネスコの公共図書館宣言の中に公共図書館の使命があって、「幼い時期から子どもたちの読書習慣を育成し」というのがあり、子どもに関するところが結構あるので、そこで押えようと思っている。</p> <p>ユネスコのエコパークの話も美術の話も音楽の話もあったかもしれませんが、コア</p>

	<p>な中心は図書館活動ですので、そこは今後、緩やかな連合体という組織で、あり方も考えないといけない。あまり特化したものばかりだと中身の無いものばかりになるのも問題なので、バランスのとれた在り方が必要。</p> <p>それと図書館は単なる建物を造るのではなく、連合組織体みたいな形でいくと、島根県の海士町が、島まるごと図書館構想を立ち上げて、学校の壁を越えて、県立学校や福祉と一緒に、いろんなところと連携して機能している。</p> <p>第一義に、基本的な図書館機能を充実させ、外側にあるものも将来的に整理して、連携の図を作って、双方がぶつかり合うのではなく活かされる関係性を構築したものになっていけばと、非常に難しい問題ですが考えている。基本理念はコアな部分を中心にご提案して、次の段階にどういう展開を踏むか、次に進めたい。</p>
衛藤委員	<p>(前回休んだので)議論の中身(会議録)を見せてもらった。先進地研修の感想で、図書館のイメージで進んでいると感じた。市の人づくり、生涯学習の拠点、まちづくり、ひとづくりの拠点になっていると感じた。特にたらみ図書館は、諫早市民の夢、希望を育む図書館になっていると感じた。暮らしの中にどっぷり浸かっていると感じた。諫早図書館は、市民全体の知的財産だと、深く感じた。森山図書館は、学校と市民が一体となった学びの図書館であると感じた。</p> <p>豊後大野市の現状を見たときに、蔵書は少ない、施設は手狭であるが、利用が少ないという課題も挙げなければならない。建設に向けてここにいる委員はたぎっている(熱意を持っている)けど、市民のみなさん(の思い)は非常に弱い、(諫早市のような)そんなイメージに市民がなっていないということを踏まえて進めなければいけない。市民と一緒に構想ができあがったところにもって行かないと、立派な構想はできても、一気に盛り上がっていくような図書館にしてほしいと思う。</p>
委員長	<p>たらみと森山図書館は、同じ設計士である。以前は、緒方や清川と同じくらいの利用者しかなかった。造るときはご批判をいただいた。食わず嫌いというか。ここは慎重に、どうやったら利用される図書館になるのか、構想を豊かにして解りやすいものにしていけば、ご理解いただけるのでは。</p>
衛藤委員	<p>補足であるが、前回の議論で市民アンケートをとったらどうかという意見があった。市民と一緒にやっていくということが大事。たらみは時間をかけながら、市民運動として市民全体がそういう雰囲気になって、そこに成功があった。みんなで考えていい施設であったと強く感じた。その辺りを少し考えていってはどうか。</p>
委員長	<p>客観的に見て行政主導となっているのは、時間的に早いかなというところだが、時間がない部分を何とか埋めていく形で計画を進め、何より皆さんに納得いただく形で計画が進んでいけばと思っている。</p>
後藤順子委員	<p>聞きたいことがある。コア、中心をどこかにつくってそして残り6箇所を平等に発展させていくと思っていたが、杉浦先生の緒方町には特徴があるので緒方に、大野町の話もあったようだが、そのような特徴があるところに図書館や資料館をつくるということ想定しているのか。</p> <p>つまり、各町に図書館や資料館をつくることを話し合っているのか。それとも中心(コア)に一つ作るのか。</p>

委員長	<p>まだ決まっていないので1つの提案として、中心は三重町かどこかに。しかし予算限界もある。例えばたらみ図書館は、30万冊の収容能力があり、平米単価で15億円とかなりの金額。それを各所に造るのは財政上難しいので、今は中心部に整備しつつ、1館に大きくしても解決しないので、1つの私の案として学校図書館とドッキングしたようなものを造って、特徴あるものということではなく、図書館機能のあるものを各町に分散型のランチを造るというイメージ。これが決まりではないがそういう話をしてきたところ。</p>
吉岡委員	<p>委員長の私案は内容的には解りやすくいいと思う。基本方針の一番基本となる、「いつでも、どこでも、誰でも」であるが、資料を見て実際に利用できているかという、緒方が低いのは歴史民俗資料館図書室の数字が入っていないからだと思う。ということは地域ごとに分室があった方がいい。</p> <p>もうひとつ気になるのが、年齢別。個人的な経験から、中高生の時に専門書に触れることが重要で、興味を持った段階で専門書に触れることが大人になっても役に立つと考えている。</p> <p>それが利用されているかと言うと、三重町については中高生の利用があるが、実際の人数がどれくらいかにもよるがその他の町の利用が非常に少ない。中高生の利用をどう増やすか。学校に併設するというのも1つの案だが、高校生の場合通学の実態が分からないが、三重町にしか高校がなくて、どこにつくれば利用が増えるかを具体的に考えていけないといけない。</p> <p>それ以外で数字として気になるのが朝地町の60歳以上の利用が非常に少ない点。朝地から三重に通うのが大変で、竹田市や大分市に行っているのかもしれない。この点も考えないといけない。基本方針もいいが、具体的にどうやっていったらいいかということをお話することが大切。中高生は自転車で通える範囲、あと駅に近い便利なところ、子連れの親は駐車場が必要、それはトレードオフの関係になってしまう。どちらを優先するかで、造る場所まで変わってきてしまう。全て平等にできればいいが、トレードオフの関係で、こっちを立てればこっちが立たないことも有り得る。そこまで考えて、もう少し具体的に話を進めないと、現状が見えてこないと思う。</p>
委員長	<p>おっしゃる通りで実態に則した整備をしないとダメだが、お金が無尽蔵にはないので、どういうところに建てれば一番利便性が高いのか、個別に状況を考えてものをやらなきゃいけない。</p> <p>ただ、財政事情を考える必要があるので、全てを新しく建てることは非常に困難で、跡地利用ということも含めて、次の段階でランチ型にするか、一ヶ所集中で大きいものを造るかなどを決めていきたい。ただ今日はたたき台ということ。</p>
工藤委員	<p>たらみ図書館は、楽しい色々な取組みがあり、「いいな。」と思った。</p> <p>森山図書館は、「落ち着けるな。」と思った。</p> <p>諫早図書館は、「街中ってこういうものなのかな。」と思った。</p> <p>たらみ図書館は、維持管理や空調、藤の花があり、諸々の管理が大変だと感じた。</p> <p>森山図書館は、今火災で完全な利用ができないが、外観を見た時に、子どもたちが「入ってみたい。」というワクワク感がもう少しあればいいなと思った。</p>

	<p>竹田市は、今図書館を建設中だが、(その新しい図書館の建設予定地が)2台がゆうゆうと車が離合できるような道路の延長線にあるものではなく、火事になったらどうするのか、周囲に民家がたくさんある。駐車場も狭く、個人的に、どうしてあんな狭いところに造った(実際は現在建設中)のか。また資料館とのマッチングもどうだろうと思った。</p> <p>豊後大野市に(図書館が)できる場合、一番利用が多いのは三重町だと思うので、第一候補地になるだろうと思う。これを市民に「図書館を建てる」と情報発信するときは、周辺地域も同様にいろんな(図書館の)サービスを受けられるということも具体的に合わせて情報発信していかないと、「また三重なの」と外の町の人から「図書館の利用が難しい」というようなマイナスイメージとして捉えられるかもしれない。市民が同じように利用できるというプラスの面も一緒に発信して欲しい。</p>
委員長	<p>市民の皆さまに、懇切丁寧にどういう図書館を目指しているか具体像が解りやすい形で、納得いただける形で情報発信が必要かなと。</p> <p>施設の分散ということもありましたが、中身の話をさせていただいた。あとで施設等いろんなことが出てくるので、立地も重要なところですので、その時にご披露していただこうと思っている。</p> <p>空調や電気代について、森山は月に80万円の電気代だった。それが改善されてたらみと同じ規模で、作った愛知川は35万円から40万円にコストダウンできた。それは、工夫をして節電対策をとれば出来ることなので、ローコストでいいサービスをということも、研究を重ねればと思っている。</p>
佐藤委員	<p>これから先、詳しいことが決まっていく中で出てくると思うが、この前、金光図書館に行った時にとってもいいことを教えていただいた。基本理念、方針、サービス、人材育成にも使われている、3本柱。</p> <p>「ありません。できません。知りません。」は、言いません。</p> <p>「ありません。」は、「お探ししましょう。作りましょう。」</p> <p>「できません。」は、「どうさせていただきますでしょうか。」</p> <p>「知りません。解りません。」は、「教えてください。使ってください。」</p> <p>ソフトの面ではあるが、実際箱(建物)ができて、図書館員やそこで携わるボランティアの方にこういう柱になるような方針があるといいと思う。</p>
委員長	<p>運営のサービス目標について、図書館職員は教育を受けている。それを貫けるか、非常に重要。職員の有り様である。ホスピタリティーの捉え方である。運営計画の中でも基本中の基本である。次のレベルの中に盛り込んでいきたい。非常に重要なところ。</p>
渡邊委員	<p>現状の貸出人数が出ているが、思った以上に多く、利用されていると感じる。現在の利用者がこういう議論をしているということを知らないと思う。現状は、現在の図書館は利用しやすく、本も探しやすく、色んなコーナーがはっきりしている。</p> <p>自分たちは他市の図書館を見学して、新たに建設をしようということがわかるが、現在の利用者には「何故、議論しているのか」というのが伝わっていない。市報にも載っていたが、「なぜ、建設するのか」といったところが見えてこない。</p>

	<p>なぜ新設する必要があるのかきちんとした(狭いなどの)PRが必要。アンケートは時間的な問題があるだろうから。図書館を7箇所にするわけにはいかないから、本の配送、欲しいときには日に2回自動車を動かすなど何らかの手を打つ必要がある。特に朝地町(の市民)は利用が少ない。「いつでもどこでも」を具体化する。</p>
後藤 順子 委員	<p>三重の図書館で、一度も本がないと言われたことがない。パソコンで調べて、大分、竹田にあるから時間がかかるけどいいですかと言うことで、取り寄せができる。パソコンなどで(県内の)図書館や市内の各公民館をつなげば、すぐに取り寄せができるということを三重町で体験した。</p>
委員長	<p>この件に関しても、現状の図書館は頑張っている。三重町の水準くらいまで各町が上ると、寄り付きやすく身近である。</p> <p>利用には臨界点があり、少ない資料をいくら並べても使われない。ある程度の規模でそこに人がいて、選ばれた資料があり、そこにサービスがあると利用される。</p> <p>システム化をして、(袖ヶ浦の例)巡回車が毎日2回、博物館、図書館、学校を巡回する。</p> <p>コアはまだ未決定だが、現状を活かす。既存の施設を活かす。この内容をもとに、具体的な案を立て、それで議論いただきたい。皆が100%GOというのは難しくても、みなさんがそこそこのところで納得いただければ。</p>
後藤 綾子 委員	<p>基本方針の数を3つに絞って、④市民一人一人…は皆さん解っていること。先生がいつも言われている、高等教育を、情報格差がないように等、もっと解りやすい表現が良いのでは。</p>
委員長	<p>これに説明が付くわけである。</p>
後藤 綾子 委員	<p>基本方針をどこでも見られるように、理想としてあげて、説明しないと解らないようなものだともったいない。先生がいつも言われている解りやすく短い言葉だと、豊後大野市も田舎だけど勉強が出来る図書館を目指しているんだなと…。</p>
委員長	<p>キャッチコピーだと思うが。今日は会議の説明のために項目をあげている。方針として掲げている。平易なことばで説明の文章にして提示したい。概ねこんな形でいきたい。では(3)について、事務局説明を。</p>
<p>(3) 規模・レイアウトについて</p>	
事務局 (太田)	<p>(3) 規模・レイアウトについて</p> <p>1. 導入エリア</p> <p>人と人が出会い、語らう場所。</p> <p>今の図書館はエントランス(玄関)が無い。入ったらすぐにカウンター。</p> <p>少し広く飲食もできで、WiFiも使えたりできる場所があった方がいいという意見をいただいた。</p> <p>広いスペースがあれば展示コーナーも設けて、郷土資料、本の紹介、市内情報などを、休憩している時に見ていただけるような場所も必要ではないか。</p> <p>買い物をして来られた場合のために、冷蔵タイプのロッカー。荷物の多い学生のためのロッカーがあるといいと意見をいただいた。</p> <p>本の無断持ち出し防止のICゲートや防犯カメラ。</p>

	<p>2. 開架エリア 多様な閲覧スペースを用意</p> <p>①一般スペース 今の図書館はカウンターが1つなので、児童、レファレンス、それぞれに対応できるように。 畳コーナー:掘りごたつ式のものがあると、年配の方の意見が多い。 パソコンスペース:持ち込みと設置型(貸出)の席 家族読書ルーム:子どもが少し大きな声を出しても大丈夫のように。 視聴覚ブース:図書館で借りたDVDを観賞できる部屋。</p> <p>②児童スペース おはなしルーム:少し区切られたコーナー 子どもトイレ、育児室、授乳室:現在はない。 ティーンズコーナー:中高生対象のコーナー。現在あるが狭い。 グループルーム:小学生から高校生まで、時間を区切って議論や作業など活動ができる部屋。母親からの意見。</p> <p>3. 集会スペース 小さい子供から高齢者まで目的ごとに集える 研修室、学習室:現在は狭い。資料に記載している人数が収容できる広さや、畳の部屋もあった方がいいのではないかと。 水場が2階にはないので、何をするにも不便。 対面朗読室:利用頻度が低い。新設の際には、会議にも使える部屋にしたい。</p> <p>4. 共有スペース</p> <p>5. 閉架スペース 書庫:現在は狭いので、10万冊収蔵できるものへ。 現在3000点ほどある貴重書、古文書を収蔵する収蔵庫も必要。</p> <p>6. 管理運営スペース</p> <p>7. 移動図書館関係スペース 屋内駐車場、移動図書館用書、作業スペースが現在はない。 移動図書館を外に置いているため、本を探すのに大変。雨の日の作業もできない。</p>
委員長	<p>他館の資料を思い出しながら付け加えをしてほしい。実現可能かは別にして。 図書館はいま発展ってきていて、アクティブラーニング、まちづくりの部屋も今日的な課題である。実現可能かリサーチをしながら、最終的な絵をかいていくということになってくると思う。</p>

	<p>たたき台として、こうした機能を持つ、理念に書かれていることや今のそれぞれの活動がどこでどうするかイメージして、使いやすい図書館になっていけばと考えている。最終的には、このコーナーがどれくらいの面積でどのくらいの%になるか。ワンフロア型か、声を意識して遮断型か。設計者が実施設計するまでが期限であるが、大幅変更だと難しい。</p>
上野委員	<p>電子書籍の閲覧に子どもたちが慣れてきた。最近の状況は。</p>
委員長	<p>数えるほどだが最近、増えてきた。だからといって、紙の図書はなくなる。国会図書館もサービスを始めたので、市町村の窓口にしてもキャパは影響ない。どうした仕様の空間にするかが重要。電子書籍を使って、アクティブラーニングがあって、プロジェクターがあって、可動式のテーブルでペインティングをしたり。不易流行ではないが、流行の部分を作る段階で、ITの部分も10年前のものでは使えない、その点を考える必要がある。</p>
衛藤委員	<p>現場の職員によるレイアウトはでた。あと市民のアンケートは時間がかかるが、せめて利用者の声は最低でもいただいた方がいい。</p>
委員長	<p>貴重な意見である。たらしみでは、利用している団体、利用しそうな団体の要望を聞いた。子育て支援、外国人労働者にも聞いた。その結果、ポルトガル語の新聞、雑誌も置いた。農業団体や工場、市民団体の要望も聞く必要がある。出会うごとに広がる。例えば区長会、学校関係者、端折らずに丹念にやった方がいい。端折ると縁遠い図書館になる。</p>
吉岡委員	<p>個人的に、図書館は気軽に入りにくいという感じがある。それに対し、書店は何も考えずに入れる。違いを考えた時に、図書館は入口狭く、大型書店はガラス張りでなんとなく入ってしまう。いくつも出入口がある。カウンターと入口が向かい合っていない。など、図書館も気軽に入れるレイアウトを考えた方がいい。カウンターではなく入ったところに本が並んでいた方が入りやすい。たらしみは、入口からアプローチが長いので、もう少し気軽に外から中が見えることも大事では。</p>
委員長	<p>人を寄せ付ける工夫も重要。運営管理主体で、監視すると問題は起きない、死角があると人が入る。そこのかみ合わせが非常に重要。風除室など。塩尻は、雑居ビルのような形でどこが入口なのか分からない形で、フラッと入れるように工夫されている。工夫されたものを研究して、それに活かすというのが大事。</p>
杉浦委員	<p>5のレイアウトで、閉架スペースが10万冊では小さいのでは。成長する図書館のことを考えると。県の農業文化公園にかなり大きな書庫があったが、農林水産の報告書類が10年経ったら廃棄されていた。本だけではなく、研究の報告書なども必要だと思うので、10万冊は少ないのでは。</p>
委員長	<p>建てた時は10万冊でも棚を設けて二層にして倍の20万冊にしたり、天井を高くしたりとかの工夫はできる。外に広げるスペースをとっておく。屋根はあっても壁は造らない。将来の拡張性を含めたことを準備しておけば、大きなお金がかからないと思う。</p>
後藤綾子委員	<p>スペースと関係ないのかもしれないが、エレベーターは、障がいのある人、寝たきりの人とかでも図書は見ることができる、寝たままで乗れるエレベーターとか。</p>
委員長	<p>バリアフリー化を設計者に注文しておく。車いすが通行できるような書架の間の幅</p>

	<p>も大切。出来るか出来ないかは別として、設計者に注文して、予算の範囲内で優先される部分が出てくる。基本的なところは踏まえているが、どこが広い狭いというのは、優先事項はこれから決まる。今の段階で具体的なイメージをこれ以上出すことは無理だと思う。</p> <p>規模、場所、床面積、駐車場とか、具体的にビジョンはあるか。何パターンかモデル案を示して、A～C案出して、セレクトしてもらおう。三重に造った場合、分散した時、巡回させるときとして、検討してもらおう。いくつかの事例を提示する。人口、面積で実現できるような案を提示したい。ほかに何かあるか。</p>
吉岡委員	<p>次回も図書館についての議論か。予定表だと6回目からは資料館についてのスケジュールとなっている。</p>
委員長	<p>次回の冒頭に図書館の案を出して議論していただいて、そのあと7割から8割で資料館の協議をしたい。それでは、田原副委員長から閉会のことばを。</p>
田原副委員長	<p>もうそろそろいくつかの案を提示していただいて、その案に従っていろいろな議論を進める段階ではないか。いろんな案があると思う。また具体的な姿が見えてくると、それに対する疑問等も出てくると思う。そういう議論を進めながら、次回以降より良いものにしていきたい。</p>
<p>～19：44 終了</p>	

記録者：小野